



第 3 号

発行 秦野パサデナ友好協会  
事務局 〒257-8501 秦野市桜町一丁目3番2号  
(秦野市 市民自治振興課内)  
TEL 0463(82)5118 FAX 0463(82)6793  
E-mail siminjiti@city.hadano.kanagawa.jp  
発行日 2008年 8月31日



# 少年野球チームが感動を報告

## パサデナフォーラム

6月22日(日) 堀川公民館



ホールはパサデナに早変わり

どしゃ降りの雨にもかかわらず、50名以上の参加がありました。来賓として、中村副市長、福森議長出席のもと、3月にパサデナを訪問した少年野球チームの報告と、糸竹舎の箏の演奏を楽しみました。まずは、コーラやお茶で乾杯し、トルティーヤチップス、フライドポテト、オニオンリング、ピーカンナッツパイなどのテキサスフードをつまみながら談笑しました。

野球チームの子供たちは、パサデナでいただいた数々の記念品を展示し、交流の様子を生き生きと報告してくれました。また、保護者の皆さんも子供たちを送り出した気持ちを語ってくれました。

糸竹舎の皆さんは、箏や三味線でフォスターの曲などを奏で、不思議で幻想的な時間を演出してくれました。糸竹舎の山本真理子さんは、この3月にも現地のスパークス小学校を訪れ、寄贈した箏の調弦をしてきたそうです。

最後は、会員の荒川宏文さんのギター伴奏で『カントリーロード』と『線路は続くよどこまでも』を参加者全員が英語で歌ってフォーラムを締めくくりました。

### バーバラ新会長から メッセージ

平和や友好促進のために、



共に頑張り  
ましょう!

### 青少年交流の促進を

## 総会 5月17日(土)

秦野商工会議所で総会が開催されました。28名の会員の出席で、昨年度の報告と監査、今年度の予算案と事業計画、特に青少年交流の促進などすべての案件が話し合われ、承認されました。

To our dear friends in Hadano,

I send you greetings from your friends in the Pasadena Sister City Program as I start my term as President. We look forward to continuing to deepen our close relationship and furthering the purposes of friendship, communication and world peace. It is through the friendship that we have developed and prospered over the years that this can be accomplished. We, like you, need to find a way to encourage the participation of younger adults. Even the service organizations in the United States are finding it difficult to have young adults join their groups. Perhaps together we can come up with a solution.

Please know that I will work hard to build up on the foundation of our friendships. Hadano and its citizens are always in my thoughts and I send best wishes to all.

Sincerely,  
Barbara Eads, President  
Pasadena Sister City Program

親愛なる秦野の友人たちへ

会長就任にあたり、皆様にごあいさつ申し上げます。私たちは今後もお互いの友情・コミュニケーション、また世界平和を推進していこうと考えています。これは長年私たちが築き上げてきたものを以ってすれば、たやすいことです。問題はいかに若い人たちの参加を促していくかです。この点はともに解決策を見つけていきましょう。一生懸命がんばります。秦野の皆様のご多幸を、心からお祈りいたします。

バーバラ・イーズ パサデナ姉妹都市協会会長





# パサデナ市民に感謝・感激・感動

## すてきな思い出ありがとう！

思い出も撮った記念写真

秦野市から市内少年野球の代表者よるチームが、2008年3月24日(月)～30日(日)パサデナ市を訪問しました。パサデナの少年野球チームや市民との交流を深め、少年野球チームとの親善試合では、2試合とも秦野チームが勝利を収めました。観客席は多くのパサデナ市民で埋め尽くされ、両チームへの応援の歓声や拍手が響き渡りました。パサデナではこの交流の様子が連日新聞で報道され、「Sister City Hadano」の名とともに、今回の訪問団の活躍ぶりがアピールされました。

### 両市の強い絆を感じる・・・参加者の感想

**今井茂文団長**・・・グラウンドの芝生に赤のスプレーで秦野市の市章が描かれていたことに、両市の友情の深さを感じました。秦野少年野球協会創設30周年という節目の年に、このようなすばらしい経験ができたことはとてもうれしい。

**飯塚雄三事務局長**・・・パサデナ姉妹都市協会の方々への献身的な対応を目のあたりにして、先輩たちのこれまでの交流が「強い絆」となっていることを痛感した。滞在中、私たちのために試合の準備や食事、買い物、見学などの先頭に立って気配りしてくださり感謝するのみです。両市の子供たちのあの明るい笑顔と会話、まさに「愛の証」だと信じます。この経験を未来の両市のために育ててくれれば幸いです。

**加藤文彦監督**・・・試合が行われた球場には、日の丸の旗が掲げられ準備万端。閉会式では「君が代」が流され感激した。

**若林秀夫コーチ**・・・1試合目の後、パサデナの友好協会の方がコーチ・選手全員のユニフォームを自宅に持ち帰り、洗濯してくださった。汚れたままで2回目の試合に臨むつもりだったが、きれいになったユニフォームで試合ができ大感激でした。

**関口直紀選手**・・・楽しかったことは数えきれないほどある。野球の親善試合が一番の思い出。日本の国歌が流れたとき、「日本の代表なんだ」と実感した。

**古谷勇樹選手**・・・2月から慣れないメンバーで、慣れない硬式野球の練習が始まり、初めはドキドキしていたが、合宿などで仲良くなり、楽しいチームになった。球場のフェンスに飾られていた名前入りの木のプレートを試合後にもらえていい記念になった。



緊張いっぱい国際試合

### いつかお返しを・・・保護者の感想

**山口賢士朗選手父**・・・全ての面で自信をつけて帰ってきた。諸星秀樹選手母・・・私の息子はキャプテンでプレッシャーもあったと思うが、このような経験ができて幸せ。アメリカで受けた温かいおもてなしを、今度はあちらからいらしたとき、是非お返ししたい。

**関口直紀選手母**・・・いつかまた、このメンバーで野球ができたらいいと思う。



あっ・・・秦野市章が！



洋を越えたアウェイゲームはまさに宝物

### 広いひろ～いパサデナからも寄せられたメッセージ ～あの日々の思い出

There could not have been a more fun and educational activity than the baseball games between the team from Pasadena's Sister City, Hadano, and the two teams from Pasadena. The International League and the Pan America League each had a team playing in the schedule. Trevor Cook, a coach from the Pan American League, found the game to be very exciting for the players as well as the coaches and parents. He felt that the players were educated about the seriousness of the players from Hadano. "This experience helped to change the attitude of our players about baseball." Cook also mentioned that our teams noticed how respectful the Hadano players were and observed that it included more than just baseball. He also noted that this experience made a difference in the baseball season here in Pasadena. One of the players, Justin Miller who played shortstop and pitcher, felt the experience was really good. He would very much like the opportunity to visit Hadano and be able to play games there.

Denise Mexicano, President of the International League, said that this event was a lifetime memorable experience. The players particularly enjoyed the cultural exchange, meeting and eating with the players. Having an opportunity to learn a few words in Japanese was exciting to the players. The parents were also excited about this opportunity and feel that it was as close to playing in the Little League World Series as they could experience. She also mentioned that they can learn new things from each other. All of those involved would love to have a chance to play baseball in Hadano.

秦野とパサデナ（パン・アメリカンリーグとインターナショナルリーグ）との親善試合は、とても楽しくて有意義なものでした。

パン・アメリカンリーグのトレバー・クックコーチのお話

秦野の選手たちからゲームに対する真剣さを学び、野球への姿勢が変わってきました。彼らは野球だけではなく、全てを含めて尊敬できる選手たちです。ショートとピッチャーでプレイしたジャスティンミラー君は、是非秦野に行って試合がしたいと言っています。

インターナショナルリーグのデニズ・メキシカーノ会長のお話

選手たちは一緒に食べたり、日本語を少し習ったりして、大いに交流を楽しみました。応援の家族も興奮し、まるで子供たちがワールドシリーズのリトルリーグでプレイしているように感じていました。選手たちはお互いに学び合えると思います。メンバー全員、秦野で野球がしたいと思っています。

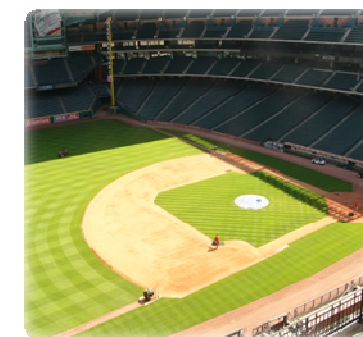
ただ今、大リーガー気分満喫中



## メジャーリーグ アストロズのホームグラウンド訪問

### ぼくも私もコーチも Everybody 大興奮

ミニッツ・メイド・パークは、松井稼頭央選手が在籍するメジャーリーグ、アストロズの本拠地。開幕前にもかかわらず、友好協会のご配慮で、訪問団メンバーはベンチやブルペン、そしてマウンドにまで立たせてもらえた。現地の人でさえもできなかったにできない貴重な体験ができた。よく手入れされたきれいな天然芝。とても広く大きな球場で、メジャーリーガーは「こんなすばらしい所でプレイしているんだな」と思った。



息をのんだダイヤモンド



## 1歳児の国際交流

### ぼくのパサデナデビュー

テキサスの家族（15年前から付き合いのあるジョンソン母子とイズ夫妻）にわが子をみせたい！そんな思いから、1歳になったばかりの息子を連れてパサデナに行くことを決意した。

空港に到着。「早く会いたい！」と、はやる気持ちを抑えながらゲートを出ると・・・いた!! 再会がうれしくて、うれしくて、お互いにハグしあった。そのとき息子は・・・突然泣き出した。ホームステイしていると、たくさんの友人や家族が訪ねてきてくれ、その度にハグをする。そのとき息子は・・・また泣いていた。どうやら息子はハグを見るのが苦手みたいだ。お母さんだけではなくほかの人がするのも。日本にはない生活習慣に、小さいながら戸惑いを感じたようだ。

息子が戸惑いを感じたのはそのくらい。人見知することなく、だれにでも愛嬌をふりまいていた。驚いたことは、英語で話しかけられても動じることなく、通じ合っていたこと。子供に言葉の壁はないようだ。そんな息子を見習って、私も国際交流をもっと楽しみたいと思った。



小さな親善大使、務まったかな？

会員 生方 美奈子



私は、28年前に故栗原市長を団長とする8人がパサデナを訪問したときから、秦野市との交流活動に関わらせていただいております。

今までの長い間、両市の交流の中で、すべてがスムーズにいったとはいえません。習慣の違いからくる失敗談、言語の不自由からくる誤解もありましたが、今では笑い話となって涙を流して笑えることができる懐かしい思い出となっています。私は今まで、何回となく秦野に公式・非公式訪問をさせていただいていますが、秦野はずいぶん変わりました。専売公社や大川楼はなくなりましたが、日本赤十字病院は移転し、新しく大きくなり、市民の憩いの場でもある秦野戸川公園もできて、秦野市は大きく発展してきています。



ミッキーさん

もっと大きく変わったことは、パサデナへの訪問団の年齢が若くなっていることです。たくさんの青少年たちが両市の交流にこんなに興味をもってくださり、次の時代への希望を大きく広げてくれることと思っています。でも、少しも変わっていないものは、市民の温かさ、優しさ、思いやりです。また、市役所の屋上から見える富士山の美しさ、市役所の桜など私は秦野のすべてが大好きです。私のふるさと”秦野”は神から私に与えられた賜物として、大切にしていきたいと思えます。一生忘れられない思い出をありがとう……

ダンスがチャンス

心伝えの今昔

参考資料「抄」『パサデナ物語』遠藤允著

その昔、第一回目のパサデナ訪問、当時の府川団長は白いハチマキに袴姿で川中島を凜々しく舞い、日本の心意気をドーンと表現。今回の少年野球チーム訪問では……トンプソン中学校で交流していた時「□×○△∞×…」と何やら問われ、わからないままイエスと答えた飯田君。いきなり始まったエアギターの演奏に得意のムーンウォーク？で……会場、大ウケ。心を伝えるには今も昔も身体いっぱい表現……かな？



パサデナコーナー開設 市民の日(11月3日)

ひとりでも多くの市民に姉妹都市交流の様子を知っていただくため、写真のパネル展示や印刷物の配布、バザーを予定しています。準備や当日のお手伝いボランティアさん募集中。また、これまでの交流の秘蔵写真をお貸しいただける方、バザー用品を提供していただける方、事務局にご連絡ください。

～平和への願いを次世代に 「秦野市平和の日」を制定

秦野市では、市民一人ひとりが平和について考え、思いを未来に向けて継承していくため、8月15日を「秦野市平和の日」に決めました。当協会の活動目標の1つに、パサデナをはじめ世界の人々との交流を通し、相互に連帯、協力し、国際平和を目指すということがあります。これを機に、多くの市民が国際平和について考え、語り合うことは、当協会でも意義深いものがあると考えます。



編集後記

異世代編集員が、心を熱くして、紙面作りをしています。

パサデナの「Howdy」読者に、秦野をより身近に感じていただくことを願っています。あなたも一緒に熱い心の内を発信しませんか？どうぞ、ご意見を事務局までお寄せください。

少年野球チームの10名の皆様ご入会感謝いたします。

ジミー・ハリス氏、ミッチェル・フライ氏ご逝去 お二人とも両市の友好促進にご活躍

去る5月、ジミー・ハリス氏が89歳、6月にはミッチェル・フライ氏が61歳でご逝去されました。

ハリス氏はこれまでたびたび来秦され、両市の友好親善の促進に努められました。

フライ氏は、通訳としてご活躍されているみずほさんのご主人で、昨年10月に秦野市の公式訪問団が訪問した折には、ホストファミリーを引き受けてくださいました。

お二人のご冥福を心からお祈り申し上げます。